

月刊

保育の質の向上を目指して

2022

10
October

定価 840円
(本体764円)

保育とカリキュラム

表現の秋

感性キラメク保育号

\\ とっておきのワザ、教えます /

大特集

夢中があふれる
絵の具あそび



裏から読んでね!!

信頼度 No.1

指導計画

SDGs
の視点で考える

持続可能な消費と生産



芽生えを盲む

0・1・2 歳児

“イヤイヤ”を支える! 食事を楽しむために

地域の人の協力(魚の解体)

近所の魚屋さんに協力をお願いし、魚の解体を見学する子どもたち。お寿司屋さんや家庭では切り身の状態でしか見たことのない子どもも多く、興味津々の様子! 「こわい」という子もいますが、友達と一緒に見ることで関心をもったり、いつもは魚嫌いな子も「おいしい」と食べられるようになったりする姿が見られました。“命を頂く”ことを知るきっかけになったり、地域の人の仕事に関心をもったりするなど、子どもたちへの影響は大きかったようです。



栽培の難しさを知る

園で様々な野菜を栽培している中で、ある日、なかなかうまく育たなかった野菜を発見。「育てるのが難しいね」と話していたところ、給食に使う野菜を持って来てくれた方の持つ、ぷっくりとおおいそうに育ったトウモロコシやトマトなどの野菜を見て、「なんで?」「すごい!!」と大はしゃぎをする子どもたち。



命ある野菜を育てる難しさに直面しつつも、感動を覚える子どもたちとの出会いがあります。

“保育者が丁寧に教える”ことも大切ですが、教えずともしぜんと子どもたち自身で学び、育っていく姿がすてきですね。



家庭ではなかなか見る機会がないことを友達と一緒に見ることで、自分の考えはもちろん、友達の見聞にふれたり、苦手な物にもちょっぴり親しみを感ずる姿が見られます。

残飯について考える

給食を残したり余ったときに出る残飯は、子どもたちに“もったいない”を伝える良い機会。園で飼っている動物の餌にしたり、どうしたら残飯が減るか子どもたちや保育者間で考えたりしてみましょう。



まとめ

SDGsの内容は一つひとつ独立したものではなく、つながりのあるものだと見えてくるでしょう。たとえば、地産地消で育てた食材を通して、子どもが自分の食べる量や嗜好に気付いたり、命の尊さや周囲と共存する必要性を学んだりすることで、衣食や園での居場所など、自分の大切な<環境>や<モノ>に対する愛情に気付くきっかけをつくっていかれたらと思います。幼児教育・保育でいう「幼児期にふさわしい生活」がここにあります。そしてこのSDGsの取り組みが園と家庭の循環につながり、子どもたちの生活がより豊かになることを願っています。



イラスト/はやしろみ

園によって、できることは様々だと思います。各園の環境をうまく生かす、工夫やヒントを紹介します。子どもたちと一緒に「食」や「もったいない」について考えるきっかけになれば、と思います。



お話/中島美奈子先生(明照保育園 主幹保育教諭)
写真協力/明照保育園(愛知)



体験することで感じる

おにぎり屋さん

1 米を研ぐ・炊く

5歳児が調理員に教わりながら、丁寧に米を研いでいきます。



2 おにぎりを作る

どうすれば三角やきれいな形のおにぎりができるのか考えたり、保育者や友達の様子をまねて工夫したりしています。



3 おにぎり屋さん

愛情込めて作ったおにぎりを年下の友達に食べてもらうために、おにぎり屋さんをオープン! 手作りのお金を使ってお店屋さんになり切ります。



異年齢間で憧れの気持ちが芽生えていきますね!



4 田んぼに行く

お米ができるまでの過程を知るために、近くの田んぼを見に行きます。田植えの様子や収穫後のイネを見るなど、季節を通して、変化を感じていきます。いつも食べているお米がどのようにできていくのかを知り、食べ物の大切さやありがたさをより感じていきます。



5 田んぼにいる生き物を知る

田んぼの中に様々な生き物がいることに気付いた子どもたち。地域の方に“イネを食べようとする生き物からイネを守っている”と教わり、どのような生き物がいるのか、園に戻って図鑑で調べる姿が見られました。食べ物を通して、自然の仕組みを学んでいきます。



コロナ禍で実施できない期間もありましたが、できるだけ様々なことを知るきっかけをつくり、体験できるように工夫しています。子どもたちの興味が広がっていく様子が伝わってきます!

